

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分  
 【発行日】令和 3 年 4 月 30 日 (2021.4.30)

【公開番号】特開 2020-187918 (P2020-187918A)  
 【公開日】令和 2 年 11 月 19 日 (2020.11.19)  
 【年通号数】公開・登録公報 2020-047  
 【出願番号】特願 2019-91643 (P2019-91643)  
 【国際特許分類】

H 0 1 R 13/52 (2006.01)

H 0 1 R 13/6581 (2011.01)

【F I】

H 0 1 R 13/52 3 0 1 H

H 0 1 R 13/52 3 0 1 E

H 0 1 R 13/6581

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 3 月 19 日 (2021.3.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 1】

第 2 装着溝 4 6 にはシールド側シール部材 7 1 が配置されている。本実施形態では、シールド側シール部材 7 1 はゴムリングである。シールド側シール部材 7 1 は、環状をなす本体部 7 2 と、本体部 7 2 から突出した複数の位置決め凸部 7 3 とを有する。本実施形態では、位置決め凸部 7 3 は、本体部 7 2 の延びる方向に離れた 4 箇所で本体部 7 2 の幅方向の両側に突出している。本体部 7 2 と位置決め凸部 7 3 とは一体に形成されている。シールド側シール部材 7 1 は、本体部 7 2 が外側配置部 4 1 に外嵌されるように第 2 装着溝 4 6 に收容されている。そして、シールド側シール部材 7 1 は、第 2 装着溝 4 6 の底面に液密に密着している。また、シールド側シール部材 7 1 は、複数の位置決め凸部 7 3 がそれぞれ位置決め凹部 4 8 内に配置されることにより、外側配置部 4 1 に対する外側配置部 4 1 と シールド側シール部材 7 1 とが相対回転する方向の位置決めがなされている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 0】

・上記実施形態では、挿入部 3 1 は、第 1 浸入抑制溝 3 8 を 1 つのみ有する。しかしながら、挿入部 3 1 は、第 1 浸入抑制溝 3 8 を複数有するものであってもよい。

例えば、図 7 に示す例では、上記実施形態の挿入部 3 1 に代えてコネクタハウジング 2 3 に備えられる挿入部 3 1 A は、上記実施形態の第 1 浸入抑制溝 3 8 に加えて第 1 浸入抑制溝 3 8 A を有する。第 1 浸入抑制溝 3 8 A は、挿入部 3 1 の外周面におけるケース側シール部材 6 1 と外側配置部 4 1 との間の部分であって第 1 浸入抑制溝 3 8 と挿入部 3 1 A の端面 3 5 との間の部分に設けられている。第 1 浸入抑制溝 3 8 A は、挿入部 3 1 A の全周にわたって連続的に設けられることにより環状をなしている。また、第 1 浸入抑制溝 3 8 A は、前後方向に沿ってケース側シール部材 6 1 から遠ざかるにつれて徐々に深くなるように形成されている。そして、第 1 浸入抑制溝 3 8 A は、前後方向と平行且つ挿入部 3

1 Aの外周面と装着孔15の内周面とが対向する方向と平行な平面で切った断面の形状が三角形状をなしている。また、第1浸入抑制溝38Aは、挿入部31Aの外周面と装着孔15の内周面とが対向する方向に傾斜面16と対向している。この例では、第1浸入抑制溝38、38Aの両方が「溝」に該当する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0062

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0062】

また例えば、図8に示す例では、上記実施形態の挿入部31に代えてコネクタハウジング23に備えられる挿入部31Bは、上記実施形態の第1浸入抑制溝38に加えて第1浸入抑制溝38Bを有する。第1浸入抑制溝38Bは、第1浸入抑制溝38と同様に「溝」に該当する。第1浸入抑制溝38Bは、挿入部31Bの外周面におけるケース側シール部材61と外側配置部41との間の部分であって第1浸入抑制溝38と挿入部31Bの端面35との間の部分に設けられている。第1浸入抑制溝38Bは、挿入部31Bの全周にわたって連続的に設けられることにより環状をなしている。第1浸入抑制溝38Bは、第1浸入抑制溝38Bの延びる方向と直交する断面の形状が円弧状をなしている。また、第1浸入抑制溝38Bは、挿入部31Bの外周面と装着孔15の内周面とが対向する方向に傾斜面16と対向している。このようにしても、図7に示した例と同様の効果を得ることができる。